

2) 問題形式

単純択一問題が多くなっており、望ましい傾向であったが内容の上で2者択一問題になっているものが指摘された。長文問題も定着し、やや簡潔にされたものが出題されて、受験者にも主旨が理解され易い問題となっているが、組み合わせられた設問間の相関と主題を多角的に取り扱い統合する努力は必要である。評価領域で一般問題でも解釈レベルの問題が多く出題者の努力が良く現れており、問題解決レベルの問題とともに比率は少しずつ増しており、望ましい状態であろう。

3) 難易度

難易度の判断については客観的評価は困難であるが、難問が今回の合格率を前回に比して低下させたとの意見はなかった。難問奇問は少なく、一部にみられた希な疾患や固有名詞も本来除かれるべき内容であろうが、教科書の記述との対比から受験生にとって難問とは言えないようであった。例えば、国民総医療費については一般診療医療費と歯科医療費を含めた比率では30%に達しないことを知っている学生に困難な問題であったことや、AIDSの新しい問題など学生の教科書水準の知識とは考えられないものもみられた。また、使用される言葉の不適切さのために困難問題とな

っている例も指摘され、各学会の用語集などに準拠した一般的用語を用いた上で一層の推敲が望まれる。

2. 医師国家試験の改善について

数年来、国家試験に関する全体の問題として、試験の時期、PMPや真偽形式など新問題形式や出題基準のあり方、卒前から卒後までの時期を幾つかに区切り、多段階の試験実施や臨床研修後の技術試験、常設試験機関の設立などについて毎回意見を提示してきたが、本年3月新たに厚生省で医師国家試験改善検討委員会が設置され、既に試験実施時期、問題形式、合否判定基準、試験結果の還元、出題基準などについて検討が行われている。これらについて当委員会としては従来の提案を再確認し同時に、平成5年度に改定される出題基準の方式について検討し、新しい出題基準が各科の枠を取り除き、統合する方向に進むとすれば、全体の中での統合された各項目の重みづけを明確にすると同時に、各科毎の出題者のためにその専門分野の重要項目のそれぞれについて統合されたものの中での位置を明確にした指針を示すため、再確認した各論編を作ることが望ましいとの結論をえた。

資料12：医師国家試験に関する専門委員会の答申

全国医学部長病院長会議*（平4.1.6）

1. 第85回医師国家試験の評価

全体として良問が多く、単なる記憶だけでなく病態生理の基本を理解している必要のある問題など出題者の苦心を評価できる出題が多かった。難問奇問は少なく、一般問題でも評価領域の中で比較的解釈レベルが多く、想起レベルのTaxonomy Iのものにも少し考えさせるいわゆるI'があった。出題形式についても昨年より更に単純択一形式の問題が多くなったことも評価できる。出題分野について正常構造と機能に関する出題は減少したが、医療総論の出題は増加し、医師の態度、死亡診断書、処方箋、老人保健の問題などがみ

られた。また、各科の境界領域の問題や老人医学の問題が出され新しい良い出題傾向と考えられたが一部の受験生には難問となった。

以下、各項に分けてのべる。

1) 出題領域・分野

基礎的問題を含めて臨床医学と社会医学の広い分野を比較的幅広く網羅した出題となっている。委員による各問題の分類では医学・医療総論の内容がやや少なかった。特に小児では各論の問題が7割を占め、プライマリ・ケアや救急の問題が少ない。医学・医療総論では病因・病態、病状、検査、及び医療総論が多く出題され、正常構造と機能は昨年より少なく、老人保健、医療経済などの問題が目立っていた。加齢の問題が出され成長発達から老化までの各ライフサイクルが出題された。各論の問題では心臓脈管疾患や消化器疾患な

* 医学教育委員会・国家試験に関する専門委員会、委員長：細田瑛一

ど日常診療に多い分野の問題が多く、著しい片寄りではなかったが、感染症や一般外科の問題がやや少ないという指摘があった。informed consent など新たに社会でとりあげられている問題も出題されたが余り難問とならないよう配慮が必要である。

2) 問題形式

昨年度よりも単純択一形式の問題が更に増して形式的に洗練された問題が多く、出題者の努力が認められる。特に長文問題は良くなって定着している。しかし簡潔な文章になってかえって誤解を招くこともある点には配慮が必要である。

3) 難易度と妥当性

全体として基本的な問題が多く妥当な内容であると評価された。しかし次のような問題が指摘された。一部には例年通りの人名の記憶を要求する問題があり、一定しない手術術式を問う問題、解答肢が必ずしも一つにならない問題、排気ガス中毒・二次管理・(公的)年金給付額など用語の不明確な問題、ケタミン麻酔、肝外傷、ヘモクロマトシスの治療、頸部腫瘍の治療、麻薬診療記録の保存機関、マラリアの標本、現在使用されないカテーテルを用いた造影写真など卒前教育のレベルとして不適切な問題も散見された。

4) その他

全般に用語はよく統一され誤解のない問題となっており視覚素材も適当で見やすいものが多かった。今後

更に経過図などの採用によって問題の幅を広げることが望ましい。

2. 医師国家試験の改善について

数年来、毎年要望されていた試験時期を早くすることについては実現される方向で計画されており平成5年から改善されると期待されている。また新しい平成5年度出題基準については各専門分野の統合が計画されており、境界領域の出題が可能となると共に問題の分野別分布の認識が容易になることと従来の各科毎の出題範囲が削減されることが期待できる。一方、現在の教育が各科毎に行われていることと国試は各科毎に出題依頼されることを考えると各科の出題者の為にその専門分野の重要項目のそれぞれについて統合されたものの中での位置を明確にした指針を示すため再編した各科編を作ることも望まれる。

その他、当小委員会では国試をなくして各大学について実質的な教育の評価を行う方法、試験時期を前臨床、卒前および臨床研修後など時期を分けて行う考えなどについて論議が行われたが今後更に継続して検討することとした。面接試験の復活や出題形式についても毎年要望を提出してきたが、昨年度と同様の結論であり、今年度は国の改善委員会で検討中という時期でありその結論を待つこととした。

資料13：医師国家試験に関する専門委員会の答申

全国医学部長病院長会議* (平4.11.27)

1. 第86回医師国家試験の評価

現在決められている試験形式と範囲の中での出題としては全体に良問が多く、単なる記憶だけでなく正常構造と機能や病態生理の基本を理解している必要のある問題など出題者の苦心を評価できる出題が多かった。難問奇問は少なく、問題評価領域も最近の数年間と同様に単純想起は約50%で、解釈・問題解決レベルが夫々22%~25%ずつ出題された。出題形式について

も単純択一形式の問題が多くなっていることは評価できる。出題分野について正常構造と機能、検査の問題が増し、医療総論の出題も更に増加し、医師の態度、死亡診断書、老人保健、ターミナルケアの問題などがみられた。

以下、各項に分けてのべる。

1) 出題領域・分野

全体として基本的知識の範囲で出題されており、基礎的問題を含めて臨床医学と社会医学の広い分野を比較的幅広く網羅した出題となっている。出題分野領域別では正常機能・構造および検査に関する出題がやや増加し、病因・病態、診察・診断などの出題がやや減

* 医学教育委員会・国家試験に関する専門委員会、委員長：細田瑛一